

◆経済倶楽部講演会第4272回（1月11日）

2019年の世界 —脱グローバル化の時代

東京大学大学院教授 藤原 帰一

- *インド映画にはまだ夢がある
- *逆戻りしだした世界情勢
- *パンドラの箱を開けた英国のEU離脱問題
- *自由世界の統合から国民国家の復活へ
- *米国、中国、ロシアの変容
- *現代における移民・難民問題とは何か
- *難民流入で高まった安全保障化要求
- *エレファントカーブに見る格差の拡大
- *貿易が支える経済成長への疑問
- *注視すべき米中新冷戦の進展



柴生田 皆様明けましておめでとうございます。
今年で3回目だと思いますが、年始めに世界
の情勢を伺うということで東大の藤原先生にお
いでいただきました。先ほどこちよとお話しし
ておりましたが、毎年年初めにお話を伺って、
年々世界の情勢がおかしくなってきたとい
う状況でございます。年始めですから楽しい
お話でも聞きたいなという方にはあまり楽し
くない話になるかもしれません。それだけ世界の
情勢が流動的になっている。あまり歓迎した
くない情勢があちこちで起きている。しかし、こ
れをしっかりと読み解いて、世界がどうい
ふふうに変わりつつあるのか、われわれはそれをどう
捉えていけばいいのかというのはいへん重要

です。ぜひ藤原先生のお話をじっくりお聞
きいただきたいと思えます。それではよろしく
お願いいたします。（拍手）

インド映画にはまだ夢がある

藤原 皆様明けましておめでとうございます。
新年早々暗い話というのは随分間が抜けた話で
すけれども、明るいことがご希望の場合には答
えは1つ、インド映画をご覧ください（笑）。
『バジュランギおじさんと、小さな迷子』とい
う映画がもうすぐ公開されます。けさもテレビ
のニュース枠でこれを宣伝してきましたが、
ヒンドゥー教徒の青年が迷子の女の子を助ける。
その女の子が実はイスラム教徒だったことがわ
かる。この青年はヒンドゥー教ですからいつも